

# キャンパスライフの満足度 : 2019年度学生アンケートの分析から

著者	櫻井 綾香, 朴 相俊, 高野 美穂, 篠? 一栄, 鈴木 真理子, 武田 貴美子, 石坂 俊也, 柴田 香菜子, 柳澤 佳代, 八尋 道子
雑誌名	佐久大学看護研究雑誌
巻	12
号	2
ページ	193-202
発行年	2020-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1050/00000267/">http://id.nii.ac.jp/1050/00000267/</a>



活動報告

# キャンパスライフの満足度： 2019年度学生アンケートの分析から

Satisfaction About a Campus Life of a Nursing Student:  
Questionnaire Survey at Saku University in 2019

櫻井 綾香<sup>\*1</sup> 朴 相俊<sup>\*1</sup> 高野 美穂<sup>\*2</sup> 篠崎 一栄<sup>\*1</sup> 鈴木 真理子<sup>\*1</sup>  
武田 貴美子<sup>\*1</sup> 石坂 俊也<sup>\*1</sup> 柴田 香菜子<sup>\*1</sup> 柳澤 佳代<sup>\*1</sup> 八尋 道子<sup>\*1</sup>

Ayaka Sakurai, Sangjun Park, Miho Takano, Kazue Shinozaki,  
Mariko Suzuki, Kimiko Takeda, Toshiya Ishizaka, Kanako Shibata,  
Kayo Yanagisawa, Michiko Yahiro

キーワード：キャンパスライフ, 満足度, 看護学生, アンケート

Key words : Campus Life, Satisfaction, Questionnaire

## 要旨

本学では学生生活の充実を図る目的で、学生を対象にキャンパスライフアンケートを毎年実施している。

看護学部学生および別科助産専攻の学生にアンケートの回答を依頼し、374名(回収率:96.39%)から回答を得た。学生生活に影響する要因と満足度指標と大学生活への満足度の相関を調べた。その結果、本学での学生生活に影響する要因として、教員に必要なことを相談できること、交友関係を深められること、精神面の支援体制、くつろげる場所が学生生活への満足度に有意な関連があった。また、満足度指標間で相関がみられたものは、精神面の支援体制、教員に必要なことを相談できること、などであった。しかし強い相関がみられた項目は多くなく、今後は上記の支援体制を強化していくとともに、学生のニーズの把握を行い、学生生活の充実を図る必要がある。

---

受付日2019年10月1日 受理日2020年1月21日

\*1 佐久大学看護学部 Saku University School of Nursing

\*2 佐久大学学生課 School of Nursing Student Section

## I. 緒言

近年、ほとんどの大学において大学生の学習支援や学習環境の整備、また、教育改善の検討を図る目的で大学在学学生を対象にアンケート調査及びインタビュー調査などの手法を通して在学生のキャンパスライフに関する情報を収集している。

本学においても、在学生の学習支援を含めた学生生活の全般的な支援体制の整備を目的に2013年から毎年1回の頻度でキャンパスライフアンケート(以下、アンケートとする)を実施している。このアンケートは、全国大学生活協同組合連合会の「学生生活実態調査」を基に、本学の实情に即した質問項目を追加、作成して行われているもので、佐久大学の独自の調査項目も含まれている。

このような調査による結果の公表については、他大学と同様に大学公式ホームページなどの情報発信媒体を通して周知されるが、結果の全体を公表することよりも受験生向けの情報などを選択的に選び、発信することが多くあった。しかし、調査に参加された在学学生に対する結果のフィードバックや大学としての学生生活の改善支援への意識を高めるためには、在学学生ガイダンスなどでの口頭説明及び記述統計だけに頼る単純集計だけではなく、より丁寧な形で情報の発信及び分析作業は必要と考えられる。

そこで本活動報告では、2019年に本学で実施したアンケート調査結果をより丁寧な形で外部へ情報発信していくために、また、今後の在学生の学習支援や学習環境の整備、充実した大学生活への支援を検討する上で参考になる基礎資料を得る目的で、総合的な大学生活の満足度に与える要因に焦点を当て、統計的な手法を用いた分析を行ったので、その結果を報告する。

## II. 調査方法

### 1. 対象者

本学在学中の看護学部1年次生から4年次生(以下、学部生)及び、別科助産専攻の学生(以下、別科生)とし、今年度の対象人数は388名であった。

### 2. 質問項目

学年、性別、居住場所(自宅通学/自宅外通学)、通学時間、通学方法、クラブ・サークル活動への参加の有無、奨学金制度の利用の有無、仕送り額、直近1週間の学習時間やクラブ・サークル活動の時間、アルバイト時間、SNS利用時間、学生生活に関すること(履修計画の立案、キャリア開発プログラム、学習する力、グループワーク、相談先、グループチューター制について)、相談できる友人の有無、教職員との関係、保健室・カウンセリングルームの利用、ハラスメントを受けた経験の有無、大学生活の満足度(事務職員の対応、各種の事務手続き、教員に必要なことを相談、クラブ・サークル活動、学内で交友関係を広げたり深めたりする機会、健康面の支援体制、精神面の支援体制、経済面の支援体制、くつろげる場所、総合的な学生生活の満足度)について質問した。

### 3. 統計解析

分析には、調査対象者の概要と各質問項目における回答状況について単純集計を行った後、各質問項目との関係性について $\chi^2$ 検定を用いた独立性の検定を行った。次いで、本学での学生生活満足度の各指標間の関連性を調べるために、学年全体を調整変数とした偏相関分析を行った。さらに、本学での学生生活に影響する要因を検討するために、従属変数を「総合的にみたこの大学での学生生活の満足度」、独立変数を「学年、性別、事務職員の対応、各種の事務手続きの満足度、教員に

必要なことを相談することへの満足度、クラブ・サークル活動の満足度、学内で交友関係を広げたり深めたりする機会の満足度、保健室や健康診断など健康面の支援体制の満足度、カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度、奨学金・アルバイト紹介などの経済面の支援体制の満足度、授業時間外に学内でくつろげる場所の満足度」として、ロジスティック回帰分析(直接投入法)を行った。すべての統計分析には、IBM SPSS Statistics Version 26を用いた。

#### 4. 倫理的配慮

アンケートは、前期の授業終了時に無記名のマークシート方式で行い、アンケート実施時にアンケートを行う目的、アンケート結果を論文として投稿する可能性があることを説明した上で、アンケートへの参加協力を口頭で呼び掛けた。なお、アンケートに関する説明および参加協力の呼びかけは、学生の成績評価や分析には関与しない事務職員が行った。

### Ⅲ. 結果

#### 1. アンケートの結果

374名から回答を得た(回収率96.39%)。内訳は、1年次生84名(22.5%)、2年次生93名(24.9%)、3年次生87名(23.3%)、4年次生98名(26.2%)、別科生12名(3.2%)であった。また、性別は、男子学生45名(12.0%)、女子学生326名(87.2%)であった。

##### 1) 学年ごとの各質問項目における割合

学年ごとの各質問項目における割合を検討するために、 $\chi^2$ 検定を行った(表1)。質問項目の中で有意差があったものは、基礎的な項目では「通学(自宅通学/自宅外通学)」、「クラブ・サークル活動をしているか」「アルバイトをしているか」、時間に関することでは「(予習・復習などの)学習時間」「実習に関する学習時間」「自主的な学習時間」「クラブ・

サークル活動時間」「アルバイト時間」「SNS利用時間」、学生生活に関する項目では「キャリア開発支援プログラムを利用して、実習や就職の準備ができた」「時間を計画的に使うことができるようになった」「グループワークで意見交換や情報共有ができるようになった」「グループチューター制を活用して先輩や後輩と情報交換ができた」「教員との関係は良好か」「保健室を利用したことがあるか」、大学生活に関する満足度では「事務職員の対応」「各種の事務手続き」「保健室や健康診断など健康面の支援体制」「授業時間外にくつろげる場所」であった。

##### (1) 基礎的質問項目

自宅通学であるか自宅外通学であるかを問うた「通学」の項目では、1年次生から4年次生では自宅通学の学生より自宅外通学の学生が占める割合が多く、特に4年次生では他の学年よりも自宅外通学の学生が多かった。また、別科生では自宅外通学の学生より自宅通学の学生のほうが多かった( $p=0.044$ )。「クラブ・サークル活動をしているか」は、1年次生では活動している学生の割合が活動していない学生の割合よりも多く、別科生を含む他の学年では活動していない学生の割合が活動している学生の割合よりも多かった( $p=0.001$ )。1年次生では活動している学生の割合は別科生を含む他の学年よりも多く、別科生では活動していない学生の割合が他の学年に比べて少なかった。「アルバイトをしているか」は、1年次生から4年次生では、アルバイトを「している」と回答した学生の割合は「していない」と回答した学生の割合よりも多く、別科生ではアルバイトをしている学生はいなかった( $p=0.001$ )。特に2年次生ではアルバイトを「している」学生の割合は他の学年よりも多かった。

##### (2) 時間

「(予習・復習などの)学習時間」は、1年次生と2年次生と4年次生では「5時間未満」と

回答した学生の割合が最も多く、3年次生と別科生では「5時間以上」と回答した学生の割合が最も多かった( $p=0.001$ )。他の学年と比較してみると、3年次生と別科生は、「5時間未満」と回答した学生の割合は少なく、「5時間以上」と回答した学生の割合は多かった。一方4年次生は「0時間」「5時間未満」と回答した学生の割合は他の学年よりも多く、「5時間以上」と回答した学生の割合は少なかった。「実習に関する学習時間」は、1年次生と2年次生では「0時間」と回答する学生の割合が最も多く、3年次生では「5時間未満」が最も多く、4年次生と別科生では「5時間以上」が最も多かった( $p=0.001$ )。他の学年と比較してみると、1年次生と2年次生では、「0時間」が他の学年よりも多く、「5時間未満」「5時間以上」が少なかった。3年次生では、「5時間未満」が多く、「0時間」「5時間以上」が少なかった。4年次生と別科生では「5時間以上」が多く、「0時間」が少なかった。「自主的な学習時間」は、1年次生では「0時間」「5時間未満」と回答する学生の割合は同割合、2年次生、3年次生と別科生では「0時間」と回答した学生の割合が最も多く、4年次生では「5時間未満」が最も多かった( $p=0.003$ )。他の学年と比較してみると、2年次生は「0時間」と回答する学生の割合は多く、4年次生は「5時間未満」「5時間以上」と回答する学生の割合が多かった。「クラブ・サークル活動時間」は、どの学年も「0時間」と回答する学生の割合が最も多く、次いで「5時間未満」「5時間以上」と回答している学生の割合が多かった( $p=0.002$ )。学年ごとに比較してみると、2年次生では「5時間未満」と回答した学生の割合は他の学年に比べて多く、3年次生と4年次生では「0時間」と回答した学生の割合が多かった。「アルバイト時間」は、2年次生では「5時間以上」と回答した学生の割合が最も多く、他の学年では「0時間」が最も多かった( $p=0.001$ )。2年次生の「5時間以上」と回答した

学生の割合は他の学年と比較しても多く、3年次生の「5時間未満」、4年次生と別科生の「0時間」と回答した学生の割合は他の学年と比較しても多かった。「SNS利用時間」は、2年次生では「5時間以上」と回答した学生の割合が多く、別科生では「5時間未満」「5時間以上」と回答した学生は同割合、1年次生、3年次生、4年次生では「5時間未満」と回答した学生の割合が多かった( $p=0.025$ )。他の学年と比較してみると、2年次生の「5時間以上」、3年次生の「5時間未満」と回答した学生の割合は他の学年よりも多かった。

### (3) 学生生活

「キャリア開発支援プログラムを利用して、実習や就職の準備ができた」は、1年次生、2年次生では「思わない」と回答した学生の割合が多く、3年次生、4年次生、別科生では「思う」と回答した学生の割合が多かった( $p=0.001$ )。学年ごとに比較してみると、1年次生、2年次生の「思わない」と回答した学生の割合は他の学年に比べて多く、3年次生、4年次生の「思う」と回答した学生の割合は他の学年に比べて多かった。「時間を計画的に使うことができるようになった」は、2年次生以外の学年では「思う」と回答した学生の割合が多く、2年次生では「思わない」と回答した学生の割合が多かった( $p=0.003$ )。特に別科生は「思う」と回答した学生の割合が他の学年に比べて多かった。「グループワークで意見交換や情報共有ができるようになった」はすべての学年で、「思う」と回答した学生の割合が多く( $p=0.018$ )、中でも2年次生は他の学年に比べて「思う」と回答した学生の割合が多かった。「グループチューター制を活用して先輩や後輩と情報交換ができた」は、1年次生から4年次生で「思う」と回答した学生の割合が多かった( $p=0.009$ )。学年ごとに比較してみると、1年次生で「思う」と回答した学生の割合が他の学年に比べて多く、4年次生で「思わない」と回答した学生の割合は他の学年

表1 学年ごとの各質問項目における割合

項 目	学 年										P 値	
	1年生		2年生		3年生		4年生		別科生			
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
通学	自宅通学	37	44.0	38	40.9	37	42.5	26	26.5	7	58.3	0.044
	自宅外通学	47	56.0	55	59.1	50	57.5	72	73.5	5	41.7	
通学時間	1時間未満	69	83.1	79	84.9	72	82.8	89	90.8	11	91.7	0.469
	1時間以上	14	16.9	14	15.1	15	17.2	9	9.2	1	8.3	
通学方法	自転車	28	33.3	35	37.6	19	21.8	30	30.6	3	25.0	0.234
	徒歩	25	29.8	23	24.7	24	27.6	23	23.5	1	8.3	
	自動車・その他	31	36.9	35	37.6	44	50.6	45	45.9	8	66.7	
		54	65.1	44	47.3	37	42.5	45	45.9	1	8.3	
クラブ・サークル活動	参加	54	65.1	44	47.3	37	42.5	45	45.9	1	8.3	0.001
	不参加	29	34.9	49	52.7	50	57.5	53	54.1	11	91.7	
アルバイト	している	52	61.9	79	84.9	60	70.6	66	67.3	0	0.0	0.000
	していない	32	38.1	14	15.1	25	29.4	32	32.7	12	100.0	
奨学金	利用している	53	65.4	54	60.7	46	57.5	67	68.4	4	33.3	0.134
	利用していない	28	34.6	35	39.3	34	42.5	31	31.6	8	66.7	
仕送り	なし	12	24.0	17	30.9	14	26.4	23	32.4	1	20.0	0.270
	10万円未満	37	74.0	38	69.1	38	71.7	45	63.4	3	60.0	
	10万円以上	1	2.0	0	0.0	1	1.9	3	4.2	6	26.6	
予習・復習などの学習時間	0時間	1	1.2	1	1.1	2	2.3	12	12.2	0	0.0	0.000
	5時間未満	54	64.3	57	61.3	40	46.5	70	71.4	0	0.0	
	5時間以上	29	34.5	35	37.6	44	51.2	16	16.3	12	100.0	
実習に関する学習	0時間	66	79.5	68	73.1	33	38.4	10	10.2	1	8.3	0.000
	5時間未満	16	19.3	22	23.7	48	55.8	38	38.8	6	50.0	
	5時間以上	1	1.2	3	3.2	5	5.8	50	51.0	5	41.7	
自主的な学習時間	0時間	39	46.4	56	60.2	46	53.5	30	30.6	6	50.0	0.003
	5時間未満	39	46.4	32	34.4	35	40.7	52	53.1	4	33.3	
	5時間以上	6	7.1	5	5.4	5	5.8	16	16.3	2	16.7	
クラブ・サークル活動	0時間	67	80.7	65	69.9	78	90.7	91	92.9	11	91.7	0.002
	5時間未満	13	15.7	25	26.9	7	8.1	6	6.1	1	8.3	
	5時間以上	3	3.6	3	3.2	1	1.2	1	1.0	0	0.0	
アルバイト	0時間	40	47.6	21	22.6	41	47.7	58	59.2	12	100.0	0.000
	5時間未満	8	9.5	19	20.4	22	25.6	12	12.2	0	0.0	
	5時間以上	36	42.9	53	57.0	23	26.7	28	28.6	0	0.0	
SNS 利用時間	5時間未満	43	51.2	39	41.9	57	66.3	55	56.1	6	50.0	0.025
	5時間以上	41	48.8	54	58.1	29	33.7	43	43.9	6	50.0	
学生生活の中で大切にしているもの	勉強	46	54.8	43	46.2	45	52.3	48	49.0	10	83.3	0.229
	友人	25	29.8	29	31.2	30	34.9	37	37.8	1	8.3	
	趣味・その他	13	15.5	21	22.6	11	12.8	13	13.3	1	8.3	
学期初めのガイダンスやシラバスを活用して、履修計画が立案できた	思う	71	84.5	79	84.9	67	77.0	80	81.6	11	91.7	0.531
	思わない	13	15.5	14	15.1	20	23.0	18	18.4	1	8.3	
キャリア開発支援プログラムを利用して、実習や就職の準備ができた	思う	36	45.0	42	45.7	61	70.1	76	77.6	8	72.7	0.000
	思わない	44	55.0	50	54.3	26	29.9	22	22.4	3	27.3	
効果的に学習する力がついた	思う	49	59.0	45	48.4	60	69.8	67	68.4	12	100.0	0.001
	思わない	34	41.0	48	51.6	26	30.2	31	31.6	0	0.0	
時間を計画的に使うことができるようになった	思う	51	61.4	42	45.2	58	68.2	55	56.1	11	91.7	0.003
	思わない	32	38.6	51	54.8	27	31.8	43	43.9	1	8.3	
グループワークで意見交換や情報共有ができるようになった	思う	80	95.2	77	82.8	80	92.0	92	93.9	12	100.0	0.018
	思わない	4	4.8	16	17.2	7	8.0	6	6.1	0	0.0	
困ったときの相談先を見つめることができた	思う	59	71.1	57	61.3	57	67.1	68	69.4	9	75.0	0.629
	思わない	24	28.9	36	38.7	28	32.9	30	30.6	3	25.0	
グループチャット制を活用して教員と必要な相談ができた	思う	55	65.6	54	58.7	59	67.8	64	65.3	0	0.0	0.129
	思わない	29	34.5	38	41.3	28	32.2	34	34.7	3	100.0	
グループチャット制を活用して先輩や後輩と情報交換ができた	思う	63	75.0	58	63.0	57	67.1	54	55.1	0	0.0	0.009
	思わない	21	25.0	34	37.0	28	32.9	44	44.9	3	100.0	
学内に相談できる友人がいるか	いる	82	97.6	86	92.5	85	97.7	91	93.8	11	91.7	0.343
	いない	2	2.4	7	7.5	2	2.3	6	6.2	1	8.3	
学外に相談できる友人がいるか	いる	80	95.2	87	93.5	83	97.6	89	91.8	12	100.0	0.636
	いない	4	4.8	6	6.5	2	2.4	7	7.2	0	0.0	
教員との関係は良好か	思う	71	85.5	67	72.0	75	87.2	80	83.3	12	100.0	0.022
	思わない	12	14.5	26	28.0	11	12.8	16	16.7	0	0.0	
事務職員との関係は良好か	思う	74	89.2	71	77.2	70	81.4	82	85.4	9	75.0	0.238
	思わない	9	10.8	21	22.8	16	18.6	14	14.6	3	25.0	
保健室を利用したことがあるか	ある	17	20.5	48	52.7	50	57.5	66	68.0	4	33.3	0.000
	ない	66	79.5	43	47.3	37	42.5	31	32.0	6	66.7	
カウンセリングルームを利用したことがあるか	ある	5	6.0	6	6.6	6	6.9	6	6.2	0	0.0	0.926
	ない	78	94.0	85	93.4	81	93.1	91	93.8	12	100.0	
ハラスメントを受けたことがあるか	ある	5	6.5	11	14.1	10	13.5	12	14.1	1	8.3	0.522
	ない	72	93.5	67	85.9	64	86.5	73	85.9	11	91.7	
事務職員の対応	満足	78	92.9	89	96.7	65	76.5	87	92.6	9	75.0	0.000
	不満足	6	7.1	3	3.3	20	23.5	7	7.4	3	25.0	
各種の事務手続き	満足	76	90.5	90	96.8	71	83.5	89	92.7	10	83.3	0.032
	不満足	8	9.5	3	3.2	14	16.5	7	7.3	2	16.7	
教員に必要なことを相談	満足	2	85.7	70	75.3	68	85.0	77	82.8	11	91.7	0.290
	不満足	12	14.3	23	24.7	12	15.0	16	17.2	1	8.3	
クラブ・サークル活動	満足	56	69.1	61	70.9	53	66.3	64	66.7	6	60.0	0.928
	不満足	25	30.9	25	29.1	27	33.8	32	33.3	4	40.0	
学内で交友関係を広げたり深めたりする機会	満足	67	79.8	65	70.7	56	65.9	69	71.1	9	75.0	0.373
	不満足	17	20.2	27	29.3	29	34.1	28	28.9	3	25.0	
保健室や健康診断など健康面の支援体制	満足	80	95.2	92	98.9	80	95.2	87	89.7	10	83.3	0.032
	不満足	4	4.8	1	1.1	4	4.8	10	10.3	2	16.7	
カウンセリングなどの精神面の支援体制	満足	78	92.9	78	85.7	66	84.6	79	89.8	10	83.3	0.447
	不満足	6	7.1	13	14.3	12	15.4	9	10.2	2	16.7	
奨学金・アルバイト紹介などの経済面の支援体制	満足	76	90.5	76	82.6	76	88.4	82	84.5	9	75.0	0.399
	不満足	8	9.5	16	17.4	10	11.6	15	15.5	3	25.0	
授業時間外に学内でくつろげる場所	満足	65	78.3	58	62.4	44	52.4	56	57.7	7	58.3	0.009
	不満足	18	21.7	35	37.6	40	47.6	41	42.3	5	41.7	
総合的にみた大学での学生生活	満足	76	91.7	74	79.6	68	79.1	84	86.6	10	90.9	0.115
	不満足	7	8.4	19	20.4	18	20.9	13	13.4	1	9.1	

に比べて多い。なお、別科はグループチューター制をとっておらず、1年制のコースのため、「思わない」と回答していると考えられる。「教員との関係は良好か」は、すべての学年で「(良好である)と思う」と回答している学生の割合が多かった( $p=0.022$ )が、2年次生では「(良好である)と思う」と回答した学生の割合は他の学年と比較すると少なかった。「保健室を利用したことがあるか」は、1年次生から4年次生までは学年が上がるにつれて「ある」と回答した学生が多くなっており、2年次生からは「ある」と回答した学生の割合は「ない」と回答した学生の割合よりも多くなっていた。1年次生と別科生は「ない」と回答した学生の割合のほうが多かった( $p=0.001$ )。学年で比べてみると、4年次生の「ある」と回答した学生の割合は、他の学年の結果と比べて多かった。

#### (4) 大学生活に関する満足度

「事務職員の対応」は、全ての学年で「満足」と回答した学生の割合が多かった( $p=0.001$ )が、学年ごとに比べてみると、2年次生の「満足」と回答した学生の割合と、3年次生の「不満足」と回答した学生の割合が他の学年の結果と比べて多かった。「各種の事務手続き」は、全ての学年で「満足」と回答した学生の割合が多かった( $p=0.032$ )が、学年ごとに比べてみると、2年次生の「満足」と回答した学生の割合と、3年次生の「不満足」と回答した学生の割合が他の学年の結果と比べて多かった。「保健室や健康診断など健康面の支援体制」は、全ての学年で「満足」と回答した学生の割合が多かった( $p=0.032$ )が、学年ごとに比べてみると、2年次生の「満足」と回答した学生の割合と、4年次生の「不満足」と回答した学生の割合が他の学年の結果と比べて多かった。「授業時間外にくつろげる場所」全ての学年で「満足」と回答した学生の割合が多かった( $p=0.009$ )が、学年ごとに比べてみると、1年次生の「満足」と回答した学生の割合と、3年

次生の「不満足」と回答した学生の割合が他の学年の結果と比べて多かった。

#### 2) 佐久大学での学生生活の満足度に影響する要因

本学での学生生活に影響する要因を検討するために、従属変数を「総合的にみたこの大学での学生生活の満足度」、独立変数を「学年」「性別」「事務職員の対応」「各種の事務手続きの満足度」「教員に必要なことを相談することへの満足度」「クラブ・サークル活動の満足度」「学内で交友関係を広げたり深めたりする機会の満足度」「保健室や健康診断など健康面の支援体制の満足度」「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」「奨学金・アルバイト紹介などの経済面の支援体制の満足度」「授業時間外に学内でくつろげる場所の満足度」として、ロジスティック回帰分析(直接投入法)を行った(表2)。

「教員に必要なことを相談することへの満足度」「学内で交友関係を広げたり深めたりする機会の満足度」「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」「授業時間外に学内でくつろげる場所の満足度」で「総合的にみたこの大学での学生生活の満足度」への有意な関連を認めた。「教員に必要なことを相談することへの満足度」で満足している学生に対して、不満足とした学生は、総合的な学生生活の不満足の調整オッズ比が2.58(1.107-6.028)であった。「学内で交友関係を広げたり深めたりする機会の満足度」で満足している学生に対して、不満足とした学生は、総合的な学生生活の不満足の調整オッズ比が2.33(1.035-5.255)であった。「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」で満足している学生に対して、不満足とした学生は、総合的な学生生活の不満足の調整オッズ比は3.79(1.467-9.790)であった。「授業時間外に学内でくつろげる場所の満足度」で満足している学生に対して、不満足とした学生は、総合的な学生生活の不満足の調整オッズ比は

表2 学生生活の満足度に影響する要因

項目	OR	95%CI	P値
学年 (ref.1年生)			
2年生	2.89	(0.905-9.207)	0.073
3年生	1.54	(0.455-5.179)	0.489
4年生	1.19	(0.352-4.011)	0.782
別科生	0.12	(0.006-2.675)	0.182
性別			
(ref.男性) 女性	0.50	(0.180-1.367)	0.175
事務職員の対応			
(ref.満足) 不満足	1.76	(0.573-5.386)	0.235
各種の事務手続き			
(ref.満足) 不満足	2.03	(0.631-6.509)	0.235
教員に必要なことを相談			
(ref.満足) 不満足	2.58	(1.107-6.028)	0.028
クラブ・サークル活動			
(ref.満足) 不満足	1.25	(0.564-2.787)	0.579
学内で交友関係を広げたり深めたりする機会			
(ref.満足) 不満足	2.33	(1.035-5.255)	0.041
保健室や健康診断など健康面の支援体制			
(ref.満足) 不満足	3.74	(0.756-18.531)	0.106
カウンセリングなどの精神面の支援体制			
(ref.満足) 不満足	3.79	(1.467-9.790)	0.006
奨学金・アルバイト紹介などの経済面の支援体制			
(ref.満足) 不満足	0.59	(0.213-1.657)	0.320
授業時間外に学内でくつろぐ場所			
(ref.満足) 不満足	4.06	(1.792-9.187)	0.001

Note. OR, odds ratio; CI, confidence interval

4.06(1.792-9.187)であった。

### 3) 大学生生活満足度の各項目間における相関係数

大学生生活満足度の各項目間における相関係数を求めた結果、0.5以上の強い相関を示すものは、別科生の「教員に必要なことを相談することへの満足度」(r=1.000)、「保健室や健康診断など健康面の支援体制の満足度」(r=0.671)「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」(r=0.671)であった。他の項目はどの学年でも強い相関は見られず、0.4以上の相関にとどまった。

学年全体(調整済み)で相関がみられたものは、「カウンセリングなどの精神面の支援体

制の満足度」(r=0.405)であった。カウンセリングなどの精神面の支援体制に満足している学生は、不満足である学生に比べて大学生生活に満足している可能性が高いと言える。1年次生で相関がみられたものは、「学内で交友関係を広げたり深めたりする機会の満足度」(r=0.401)「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」(r=0.418)、「奨学金・アルバイト紹介などの経済面の支援体制の満足度」(r=0.489)であった。1年次生は、交友関係を広める機会、精神面の支援体制、経済面の支援体制に満足している学生は、不満足である学生に比べて大学生生活に満足している可能性が高いと言える。2年次生で相関



表3 総合的にみた大学英活の満足度に関連する満足度指標間の相関係数

	項目	事務職員 の対応	各種の事 務手続き	教員との 相談	クラブ・ サークル 活動	交友関係 の機会	健康面の 支援体制	精神面の 支援体制	経済面の 支援体制	学内でく つろげる 場所
学年全体	総合的に みた大学 生活の 満足度	0.193**	0.171**	0.374**	0.225**	0.328**	0.279**	0.402**	0.280**	0.311**
学年全体 (調整済み)		0.205**	0.185*	0.379**	0.202**	0.305**	0.286**	0.405**	0.256**	0.324**
1年生		0.250*	0.342**	0.368**	0.280*	0.401**	0.337**	0.418**	0.489**	0.260*
2年生		0.218*	0.209*	0.266*	0.276*	0.202	0.206*	0.408**	0.049	0.267**
3年生		0.188	0.158	0.426**	0.590	0.234*	0.292**	0.333**	0.348**	0.315**
4年生		0.121	0.123	0.419**	0.301**	0.484**	0.364**	0.412**	0.418**	0.337**
別科助産		0.516	-0.149	1.000**	0.500	0.516	0.671*	0.671*	-0.149	0.418

spearmanの相関係数(±0.4以上を色付け)

学年全体(学年調整済み)の相関分析は、偏相関分析を実施(抑制変数: 学年)

「\*」はp<0.05、「\*\*」はp<0.01を示す。

がみられたものは、「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」(r=0.408)であった。2年次生は、精神面の支援体制に満足している学生は、不満足である学生に比べて大学生活に満足している可能性が高いと言える。3年次生で相関がみられたものは、「教員に必要なことを相談することへの満足度」(r=0.426)であった。3年次生は、教員との関わりに満足している学生は、不満足である学生に比べて大学生活に満足している可能性が高いと言える。4年次生で相関がみられたものは、「教員に必要なことを相談することへの満足度」(r=0.419)、「学内で交友関係を広げたり深めたりする機会の満足度」(r=0.484)「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」(r=0.412)、「奨学金・アルバイト紹介などの経済面の支援体制の満足度」(r=0.418)であった。4年次生は、教員との関わり、交友関係を広げる機会、精神面の支援体制、経済面の支援体制に満足している学生は、不満足である学生に比べて大学生活に満足している可能性が高い。別科生で強い相関および相関がみられたものは、「教員に必要なことを相談することへの満足度」(r=1.000)、「保健室や健康診断など健康面の

支援体制の満足度」(r=0.671)「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」(r=0.671)であった。別科生は、教員との関わりに満足している学生が大学生活に満足し、健康面の支援体制、精神面の支援体制に満足している学生は、不満足である学生に比べて大学生活に満足している可能性が高いと言える(表3)。

#### IV. 考察

##### 1. 学習時間

3年次生、別科生は前期の授業が他の学年に比べて多いこと、後期から実習が始まることから予習・復習・課題にかかる学習時間や実習に関する学習時間が長いと考えられる。一方で4年次生は、前期は必修の授業が多くなく、また7月に看護総合実習があることから、予習・復習・課題に学習時間をかけるよりも、実習に関する学習時間が長くなっていると考えられる。また就職試験も差し迫っており、学内の学習だけではなく就職試験に対する学習時間が必要となるため、自主的な学習にかかる時間が他の学年に比べて多いと推察される。

## 2. 学生生活

本学では、臨地実習や就職試験の準備がスムーズに行えるよう、学生のキャリア開発支援プログラムとして各学年3~4回/年の単発の講座を開いている。しかし1年次生、2年次生にとっては実習や就職が上級生ほど身近なものではないと考えられるため、「キャリア開発支援プログラムを利用し、実習や就職の準備ができた」とは実感できないのかもしれない。しかし、看護学生の就職活動の時期は年々早まってきているため、1年次生、2年次生が準備を開始できるようなプログラムを検討していく必要がある。学部のすべての学年で「グループチューター制を活用して先輩や後輩と意見交換ができた」と考えている学生は多かった。1年次生は他の学年と比べて多く、一方で4年次生では「思わない」と回答する学生が他の学年と比べると多かった。これには、4月初めに1年次生から4年次生までそろったグループチューターミーティングが行われていることが関係していると考えられる。その場で1年次生は先輩と関係を構築し、学内の情報を得る機会としているが、4年次生は下級生から情報を得るというよりは、下級生に情報を伝達するという役割が強く、「情報交換」に至らないためと考えられる。しかしながら、4年次生は「学内で交友関係を広げたり深めたりする機会」に満足している学生の方が、不満足な学生よりも大学生生活の満足度が高いことも示唆されているため、グループチューター制が担う役割、目的を検討する必要があると考える。

保健室の利用に関して、学年が上がるにつれて利用したことがあると回答する学生は増加し、4年次生では利用したことがある学生の割合は他の学年に比べて多い。一方で、「保健室や健康診断など健康面での支援体制」については4年次生では満足と回答した学生の割合は他の学年に比べて低いことから、学生が大学に望む「健康面での支援体制」につい

て検討する必要がある。

## 3. 大学生生活に関する満足度

別科生は、「教員に必要なことを相談することへの満足度」「保健室や健康診断など健康面の支援体制の満足度」「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」において、完全相関、強い相関を示しているが、他の学年は全体的に強い相関を示す項目はない。これは学生の大学に求めるニーズを質問項目として反映できていなかった可能性も考えられる。各学年で最も高い相関係数は、学年全体（調整済み）と2年次生では精神面の支援体制、1年次生では経済面の支援体制、3年次生と別科生では教員に必要なことを相談できること、4年次生は学内での交友関係を広げたり深めることであったことから、今後はこれらに重点を置き、支援体制を強化する、教員は今以上に学生から質問を受けられる態勢を整えることが必要であると考えられる。また、学生からの質問を受ける際の場所の確保も必要と考える。

## V. 結論

本学での学生生活に影響する要因として「教員に必要なことを相談することへの満足度」「学内で交友関係を広げたり深めたりする機会の満足度」「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」「授業時間外に学内でくつろげる場所の満足度」で「総合的にみたこの大学での学生生活の満足度」への有意な関連を認めた。

満足度指標間で相関がみられたものは、1年次生で「学内で交友関係を広げたり深めたりする機会の満足度」「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」「奨学金・アルバイト紹介などの経済面の支援体制の満足度」、2年次生で「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」、3年次生で「教員に

必要なことを相談することへの満足度」、4年次生で「教員に必要なことを相談することへの満足度」「学内で交友関係を広げたり深めたりする機会の満足度」「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」「奨学金・アルバイト紹介などの経済面の支援体制の満足度」、別科生で「教員に必要なことを相談することへの満足度」「保健室や健康診断など健康面の支援体制の満足度」「カウンセリングなどの精神面の支援体制の満足度」であった。

## 謝辞

アンケートにご協力くださいました学生の皆様に感謝いたします。

## 参考文献

全国大学生生活協同組合連合会. 学生生活実態調査, 2019/9/25, <https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>